雑学書庫 知識の記録

画面を横に押し縮めて収めるレンズ、アナモルフィックレンズ（Anamorphic Lens）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/11129/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

映画館の大きなスクリーンいっぱいに広がる場面を見ると、テレビよりずっと横長であることがわかります。夜の街の場面では、車のライトが画面を横切る青い光の筋となってにじむこともあります。ところが、この広い画面は最初から広く記録されたものではなく、撮影時に横にぎゅっと押し縮めて収め、映写時にふたたび広げた結果であることが多いのです。 この魔法のようなことをやってのける機材こそが「アナモルフィックレンズ（Anamorphic Lens）」です。アナモルフィックレンズとは、簡単にいえば、広い場面を横方向だけ圧縮して狭いフィルムやセンサーに収め、あとで同じ比率でふたたび引き伸ばしてワイド画面をつくり出す特殊なレンズのことです。名前は「再び」と「形」を意味するギリシャ語に由来します。 本稿では、アナモルフィックレンズが画面を圧縮する原理と誕生の過程、このレンズだけが生み出す独特な画面の特徴、そして今日ふたたび注目される理由までを順に見ていきます。 広い画面を収めるレンズの原理と魅力 押し縮めて、また広げる原理 アナモルフィックレンズの核心は、横と縦を異なる形で扱うところにあります。 (1) シリンドリカルレンズで横だけを圧縮普通の丸いレンズは、上下と左右を同じように扱います。一方、アナモルフィックレンズには円筒のように一方向にだけ湾曲したガラスが入っていて、縦はそのままに横だけを狭く押し縮めて収め